

1. 授業の概要(ねらい)

質的研究、とくに面接法(インタビュー法)は、人と人との関わりの中でデータを収集する方法である。そこには、単に言葉のやりとりを超えて、怒りや嫉妬を伴った感情、穏やかさや温かさが伴った情緒交流が生じる。だからこそ、人が人を研究することの難しさと興味深さを体験することができる。そのためには、倫理規範を身につけること、適した分析方法を選択できる知識が必要となる。

この講義では、質的研究の実施法・分析法を学び、研究を立案できることを目指す。

2020年度秋学期、この授業はオンラインにて実施する。LMSにパワーポイントと音声をアップする。

2. 授業の到達目標

- 1) 人の研究における倫理について説明することができること
- 2) 調査面接法を用いた研究計画を立案できること
- 3) 調査面接を実施できるようになること
- 4) 調査面接の結果を分析できるようになること

3. 成績評価の方法および基準

毎回の感想(初回と最終回を除く13回)40%、2回のレポート提出60%とする。

4. 教科書・参考文献

参考文献

三浦麻子(2018) なるほど!心理学面接法 北大路書房
岩壁茂(2010) はじめて学ぶ臨床心理学の質的研究:方法とプロセス 岩崎学術出版社
能智正博(2011) 臨床心理学を学ぶ⑥質的研究 東京大学出版社

5. 準備学習の内容

- ・講義の前に教科書を読んであらかじめ予習しておくこと
- ・調査面接ができるようになるために、倫理観を身につけること

6. その他履修上の注意事項

「なぜ」「どうして」という視点を常に持ってください。

調査を依頼することがあります。協力者として面接をぜひ体験してみてください。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス:質的研究は何を知ろうとしているのか
- 【第2回】 質的研究をどのように立ち上げるか
興味関心・問題意識から研究にするために何が必要なのか
- 【第3回】 臨床倫理と研究倫理について学ぶ
- 【第4回】 面接法とは何か、について学ぶ
臨床面接と研究面接の違いは何だろうか
- 【第5回】 臨床面接について学ぶ
人を援助するために必要な技法と態度について知る
- 【第6回】 調査面接をするために必要なことを学ぶ①
インタビューを実施するために準備することを知る／基本的態度を学ぶ
- 【第7回】 調査面接をするために必要なことを学ぶ②
インタビューでよく起こる問題について検討する
- 【第8回】 調査面接の方法を学ぶ
構造化面接・半構造化面接・非構造化面接法の違いについて
- 【第9回】 質的研究を分析するために必要なことを学ぶ
課題:レポート提出①
- 【第10回】 質的研究を分析するために必要なことを学ぶ
- 【第11回】 レポート①解説から学ぶ
- 【第12回】 グランデッドセオリー法および修正版グランデッドセオリー法、KJ法を学ぶ
- 【第13回】 ソフトを用いた分析方法について学ぶ
課題:レポート提出②
- 【第14回】 逐語記録を分析した結果から、どのように考察するのかを学ぶ
- 【第15回】 レポート②解説から学ぶ